

記者配布資料

大阪経済記者クラブ各位

(同時資料提供=大阪市政記者クラブ、関西レジャー記者クラブ、大阪教育記者クラブ)

「初心者のための上方伝統芸能ナイト」 100回記念公演シリーズの開催について

【お問合せ先】大阪商工会議所 地域振興部 (川端・本)

TEL : 06-6944-6323

- 大阪商工会議所と大阪市が共催し、公益財団法人 山本能楽堂が主催している「初心者のための上方伝統芸能ナイト」が、平成23年10月15日に第100回を迎えます。
- これを記念し、99回 (10月1日 (土) 開催) から104回 (12月31日 (土) 開催) までの6回の公演を「100回記念公演シリーズ」と位置付け、山本能楽堂で特別企画を開催します。
- 「初心者のための上方伝統芸能ナイト」 (<http://kamigata-night.com/>) は、ジャンルの異なる4種類の伝統芸能 (能、狂言、文楽、上方舞、講談、落語、浪曲、お座敷遊びなど) の見どころを、落語家の司会と出演者の解説付きで各15分ずつ上演するという、伝統芸能の世界においては極めて画期的な企画です。平成18年12月に大阪商工会議所と山本能楽堂が共同企画し、1年超の試行上演を経て、平成20年4月より毎月第1・3土曜日に定期開催しており、これまでの公演数は96回、参加者は延べ9189人に上ります。「敷居が高い」と思われがちな伝統芸能の世界のイメージを払拭し、大阪の文化・芸能を気軽に楽しめる新たな夜型エンターテインメントとして幅広い世代・国籍の方々から好評を博しています。
- 100回記念公演シリーズは、「東北」にちなんだ演目を揃え東日本大震災の被災30人を招待する第99回を皮切りに、桂南光さんを特別ゲストに迎え、お祝いの演目を上演する第100回、全演目を英語で上演する第101回、「大阪の音」に着目した演目を集めた第102回、落語・講談の芸風における東西の違いを味わう第103回、大晦日の年越しを楽しむ第104回など、上方伝統芸能の懐の深さや多彩さを再認識してもらえるよう、1回毎に異なるテーマを設け、普段は味わうことのできない趣向を凝らした内容になっています。
- 100回達成を機に、今後一層大阪が誇る資源である「上方伝統芸能」を活かし、国内外から大阪への観光集客につとめていきます。

※本件について、9月9日 (金) 10時30分より公益財団法人 山本能楽堂 (大阪市中央区徳井町1-3-6) において記者の皆様を対象に、出演者による説明会を行います (事前申込不要)。

以上

<添付資料>

- 初心者のための上方伝統芸能ナイト 100回記念公演シリーズ 開催概要
- 初心者のための上方伝統芸能ナイトとは

初心者のための上方伝統芸能ナイト 100回記念公演シリーズ 開催概要

第99回【東北の皆様へ、復興の願いをこめて～「東北スペシャル」編】

多彩な上方伝統芸能の中から、東北にちなんだ演目、あるいは東北地方を題材にした演目を上演します。本公演については、東日本大震災で被災され大阪に来られた方をご招待します。

被災者の方々に、東北を題材にした上方伝統芸能をご覧いただくことにより「東北の素晴らしさ、豊かさ」について再認識していただき、また一般のお客様にも東北へのより深い関心や興味を持ち、思いを寄せて頂くことができれば、という思いを込めて開催します。

■日時：10月1日（土） 18時～20時

■プログラム（予定）

- ・能「安達原」
- ・狂言 小笠原匡
- ・落語 桂春蝶
- ・浪曲 春野恵子

【被災者のご招待について】

■申込方法

公益財団法人 山本能楽堂あて、メールまたはFAXで、

①申込者氏名、②出身都道府県、③連絡先（電話番号）、④申込人数（被災者及び同伴者、1グループ計4人まで）を記載のうえ、お申込みください。

メール：info@noh-theater.com FAX：06-6942-5744

■定員：30名（先着順・事前申込制）

第100回【「100回スペシャル！スペシャル」編】

100回を記念して能・文楽のお祝いの演目を上演し、また桂南光さんを特別ゲストとしてお迎えする、いつもより一層華やかな特別プログラムです。出演者による「口上」も計画しています。

■日時：10月15日（土） 18時～20時

■プログラム（予定）

- ・能「石橋」山本章弘
- ・文楽：源平布引滝（げんぺいぬのびきのたき）
「実盛物語（さねもりものがたり）」の段より
竹本 千歳大夫・鶴澤 清志郎
吉田 玉女・吉田 文司・吉田 玉誉・吉田 玉路（たまみち）
- ・落語（演目未定） 桂 南光、桂 春蝶
- ・司会 桂 吉坊

第101回【「英語で上方・スペシャル！」編】

司会・解説を含め、公演を全て英語で上演します。

講談と落語は英語で上演、能とお座敷遊びは英語の字幕と英語による解説つきです。

外国人観光客の皆様にも楽しんで頂けるよう積極的に取り組んできた中から生まれた、伝統芸能の世界では極めて珍しい取組みになります。

■日時：11月5日（土） 18時～20時

■プログラム (予定)

- ・講談 旭堂南陽
- ・落語 桂かい枝
- ・能 「岩船」
- ・お座敷遊び 島之内 たに川

第102回【「大阪の音色を楽しむ！スペシャル」編】

「大阪の音」にこだわった演目を上演し、上方の音の多彩さ、多様さに焦点を当てた企画です。

かつて大阪が「大大阪」として栄えた時代には、大阪の町のあちこちから、三味線の音や義太夫節、浪曲などが聞こえてきました。大阪で育まれた大阪ならではの「上方の音」が町から消え去ろうとしている今、できることならば大阪の町に今一度「音」を取り戻したい、という思いを込めた企画です。

*落語の「はめもの」は、落語の中にたくさんの音が効果的に使われる、上方落語特有のもので

■日時：11月19日（土） 18時～20時

■プログラム (予定)

- ・落語 (はめもの) 桂吉坊
- ・女道楽 内海英華
- ・浪曲 春野恵子
- ・上方舞 山村若

第103回【「落語・講談 東西対決スペシャル」編】

落語、講談の東西対決！

100回突破を記念して、東京から落語・林家喜久蔵さん、講談・神田山陽さんをお招きし、東西の芸風の違いを楽しんでいただきます。東京からゲストをお招きするのは今回が初めてとなります。

■日時：12月9日（金） 18時～20時

■プログラム (予定)

- ・落語 桂 春蝶
- ・講談 旭堂南海
- ・落語 林家喜久蔵
- ・講談 神田山陽

第104回【「大晦日！年越しスペシャル」編】

毎年恒例となった、日本の伝統を感じながら大晦日を能楽堂で迎える、年末のスペシャル企画。通常の4演目より2演目多い、6演目を上演し、上方伝統芸能を満喫いただきます。

また、入口には「バーコーナー」を設け、北新地よりバーテンダーを招き、アルコールを含めたドリンクサービスを提供、また、終演後には出演者一同による「鏡開き」と「お楽しみ抽選会」を開催いたします。

■日時：12月31日（土） 21時30分～0時30分

■プログラム (未定)

「初心者のための上方伝統芸能ナイト」とは

【特徴】

大阪で育まれた豊かな文化・芸能を広く一般の方に楽しんで頂くため、能、狂言、文楽、上方舞、講談、落語、浪曲、お座敷遊びなどジャンルの垣根を超えた、様々な上方伝統芸能の演者達が協力して企画・出演し、地元住民や観光客に提供する新たな夜型エンターテインメントである。

大阪は、たこ焼きやお笑いだけの街であると思われがちであるが、全国の他のどの地域よりも多彩な芸能が育まれた「文化集積都市」であり、本公演はその豊かな文化をアピールすることができる、大阪でしか出来ない、大阪で生まれた、大阪独自のものであり、文化の力で大阪を元気にしていくことを目指している。

【経緯】

平成18年12月に、(財)山本能楽会と大阪商工会議所の共同企画「おとなの年越しライブ」として開始し、その後、大阪商工会議所、大阪市、(財)大阪観光コンベンション協会の主催で、平成19年から平成20年にかけて、15回の試行上演を行ったところ。伝統芸能の鑑賞経験が少ない20代～40代を中心に2000人以上が参加し、アンケートでは公演内容に高い評価が与えられるとともに、継続開催を望む声が多数寄せられた。そこで、開催を継続するため、平成20年4月より山本能楽堂が事業を受け継ぎ、大阪商工会議所、大阪市、(財)大阪観光コンベンション協会の協力を得て、毎月第1、第3土曜日の夜に定期公演を実施している。

【効果】

出演者からは、①他の芸能と競演することでお互いに刺激となった、②参加者が各芸能に興味をもち、舞台や教室の集客につながった、③今まであまりなかった他の芸能の方との連携が生まれた、などの声があり、定期公演化することで上方伝統芸能の活性化につながっている。本公演の出演者同志で、新しい企画や公演が生まれており、上方伝統芸能の新たな発展に寄与している。

関西のみならず、東北や九州など遠方からの参加者があり文化の香り高い「観光都市大阪」をアピールできる新たな観光資源としても期待が寄せられている。

留学生等大阪に長期滞在する外国人、あるいは外国人観光客もしばしば訪れ、大阪で、日本の文化を知る貴重な機会、文化交流の場になっている。日本語のわからない外国人のために、外国語の解説資料を配布するほか、平成22年9月より毎回英、中、韓、日の4ヶ国語の解説字幕を舞台横に掲示している。

毎回行う来場者アンケートの回収率は非常に高く、多い時では95%以上となるが、そのほぼ99%の方に「楽しかった」とご回答頂き、満足度が高い事が伺える。また今まで古典芸能の世界では少なかった20歳代から40歳代の観客が6割を超え新たなファン層を開拓した。リピーターの数も、回を重ねるごとに増えている。

【参加者実績】

	年度	公演数	参加者数	備考
試行公演	平成18年度	4公演	598人	
	平成19年度	11公演	1579人	
定期公演	平成20年度	25公演	2718人	
	平成21年度	23公演	1860人	
	平成22年度	23公演	1815人	
	平成23年度	10公演	619人	8月開催分まで
平成18～23年度		96公演	9189人	